

みんなとともに笑顔いっぱい



みんなとともに



本校職員の不祥事により、多くの皆様にご迷惑をおかけしておりますことを、校長として心よりお詫び申し上げます。今後、二度とこのようなことがないよう再発防止に努めてまいります。また、本校職員とともに、日々の教育活動を充実させることを通して、信頼回復に努めてまいりますので、なお一層のご支援をお願いいたします。



「子どもの傷ついた心のケア」に努めています

市教育委員会から市スクールカウンセラーを派遣していただき、いち早く「子どもたちの心のケア」に取り組みました。また、市教育委員会が県教育委員会に緊急スクールカウンセラーの派遣を要請し、福島第一中学校区担当のカウンセラーを派遣していただきました。

なお、2月6日（水）から2月8日（金）の「カウンセリング」の実施状況は、次のとおりです。

（SC…スクールカウンセラーの略語）

実施日	担当SC	実施児童数
2月 6日（水）午後	市相馬SC	6年女子7名（自ら希望6名、教師から指名1名）
2月 7日（木）午前	市佐藤SC	6年男子9名 4年男子1名
2月 8日（金）午後	市相馬SC	6年女子7名
2月 8日（金）一日	県安部SC	6年男子3名 6年女子6名 4年女子3名

※ 6年児童は全員対象としましたが、保護者から同意しない旨の申し出のあった児童については実施していません。

2月12日（火）、13日（水）については、全校児童を対象に調査を行い、保護者から実施希望のあった児童についてカウンセリングを行いました。

実施日	担当SC	実施児童数
2月12日（火）午後	市佐藤SC	1年女子1名 2年男子2名 4年男子1名 6年男子2名
2月13日（水）午後	市相馬SC	2年女子1名 4年女子2名 5年女子1名 6年女子2名



◇ 「心のケア」に関して、校長がいま考えていること

- **今の時期だけではなく、時間を置きながら、「カウンセリングの機会」を設定する必要がある。**
 - ・ 動揺の大きさが個人によって違います。自分で解決できる子もいれば、気持ちの整理の手助けが必要な子もいます。今後も子どもの様子を見ながら、市カウンセラーの支援を要請していきたいと考えています。
 - **保護者の方の「心のケア」を図る機会も設定する必要がある。**
 - ・ 「子どもの家での言動に、どのように対応してよいかわからない」という声も聞こえてきます。保護者一人一人に対するカウンセリングの機会を設けることは難しいので、「座談会」のような機会を設定してはどうかと考えています。
- ※ 6年生保護者との話し合いの中で、「着地点」という言葉がありました。子どもにとっての「心の区切り」という意味だと捉えています。とても大事な視点だと思いました。どうすればよいかを考え中です。

【校長のつぶやき】 その11 「いま、ここ」の気持ちを大切に

教職2年目に「教育相談」の世界に出あった。そのとき「自分が求めていたものは、これだ」と感じた。以来30数年、「教育相談」を柱に教員生活を送ってきた。教育相談の神髄は「いま、ここ」という考え方にあるのではないかと考えている。

先のことを考え憂えることを「不安」と言う。過去のことを考え憂えることを「鬱」と言う。どちらも行き過ぎると、「心の健康」を損ねてしまう。

また、「過去と他人は変えられない」と言う。ならば、過ぎた日を憂えず、他人が思い通りにならないことを憂えずに、「いま自分ができること」に尽力するのが「よい生き方」と言えるのではないだろうか。

一見すると「マイナスと感じる出来事」も、後から振り返ると自分の成長にとって「プラスの出来事」であった、ということはよくあることである。天の配剤である。拙い自分は「いま、ここ」に生きるのみである。